

総合重工各社 反転攻勢 打ち出す  
環境対応や構造改革  
入社式

反転攻勢する姿勢などを打ち出した。

■JMU・千葉光太郎社長  
厳しい事業環境の中でも、JMUは自分たちの強みである人財・技術力・開発力を最大限に生かし、環境性能の高い船を日本で建造し広く世界に提供していくという高い志を持って、攻めの姿勢を貫いてきた。その象徴が昨年1月に発足した今治造船との営業・設計合併会社「日本シップヤード（NSY）」。

昨年12月までの1年間で約150隻の受注実績を上げ、おおよそ2年から約2年半の工事を確保した。

■川崎重工工業・橋本康彦社長  
特に注力すべき3つのフィールドを「安全安心リモート社会」「近未来モビリティ」「エネルギー・環境ソリューション」と定めた。2月には世界初の水素運搬船「すいそ ふろんていあ」が試験航海を成功させ、水素でのカーボンニュートラル実現に向けて着実に進捗している。

■三菱重工工業・泉澤清次社長  
2021年10月、当社グループは40年でのカーボンニュートラル達成を目標とし「MISSION NET ZERO」を宣言した。以前から省エネルギー技術、新エネルギー技術、CO<sub>2</sub>（二酸化炭素）回収技術などの研究開発を数多く実施。幅広い技術を保有している

当社グループは、カーボンニュートラルに挑める。当社グループのミッションを常に意識しながら、変化や失敗を恐れず、果敢に新しいことにチャレンジしていく。

■三井E&Sホールディングス・高橋岳之社長  
この3年間着実に事業再建計画を進めてきたことで、その達成に一定のめどが立ち、今年度は事業再建計画の仕上げとともに、反転攻勢、成長戦略を推進し、新たな成長・発展に向けたアクションを起こす年となる。

■住友重機械工業・下村真司社長  
新型コロナウイルスの影響は世界規模の供給問題を引き起こしたが、ロシアのウクライナ侵攻は供給に加え、需要・金融にも大きなインパクトになつており、不透明感が増している。このような環境の中で、競合と競いながら経済価値と社会的価値向上を勝ち取っていくには、着実に経営の質を上げていくとともに、知の深化と知の探索による価値差別化とイノベーションの価値創造が必要不可欠だ。

常石グループ  
河野会長  
失敗は成長の証し

常石グループは1日、59人の新入社員を迎えて入社式を開いた。ツネイシホールディングスの河野健二会長は祝辞で「挑戦とは成長であり、失敗は成長の証しとなるものだ」との言葉を贈った。

河野会長は常石グループについて「1903年に海運業を始め、今では海運、造船、環境、エネルギー、サービスという5つの事業セグメントを有し、海外進出も積極的に行う企業へと成長した」と説明。

その上で、「これらは諸先輩たちがいろいろなことに挑戦してきた証しで、そのたまものでもある。これから私たちと一緒にさまざまな挑戦をしていこう」と呼び掛けた。